

## PRINTING DEVICE CAPABLE OF AUTOMATICALLY CHANGING ASPECT RATIO OF PRINT

**Publication number:** JP1282533

**Publication date:** 1989-11-14

**Inventor:** IWASHITA NORIYOSHI; EGAWA TAKESHI;  
SUGIYAMA YOSHIAKI

**Applicant:** CANON KK

**Classification:**

- **International:** G03B27/32; G03B27/32; (IPC1-7): G03B27/32

- **European:**

**Application number:** JP19880113273 19880509

**Priority number(s):** JP19880113273 19880509

[Report a data error here](#)

### Abstract of JP1282533

**PURPOSE:**To obtain a photographed frame of a desired magnification only by pushing a lengthwise print setting button by reading information on a desired aspect ratio of a print, which is recorded on film, and automatically setting a printing head part so as to correspond with the magnification shown by the information. **CONSTITUTION:**A lengthwise print setting lever 4 is moved to push a finder field switching member 16 through the leading edge 4a of the lever 4 and to slide said member 16 to the right against a spring 18. After the member is slid by a whole stroke, a fixing lever 19 is turned clockwise by a spring 21, and the one end 19a of the lever 19 is engaged with the notched part 16c of the member 16. In such a way, a visible field for a lengthwise print 16b is fitted to the position of a finder, a detecting switch 23 is turned on, and a release button 3 is pushed to release a shutter. If a photographer mistakenly pushed the lever 4 or changed his mind to alter an operation method, he pushes a cancel button 5 to return the lever 4 and its subsequent parts to their home positions.

---

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-282533

⑬ Int. Cl.  
G 03 B 27/32

識別記号 庁内整理番号  
B-7610-2H

⑭ 公開 平成1年(1989)11月14日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全10頁)

⑮ 発明の名称 プリントの縦横比自動変更可能な焼付装置

⑯ 特 願 昭63-113273

⑰ 出 願 昭63(1988)5月9日

⑱ 発 明 者 岩 下 知 徳 神奈川県川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社  
玉川事業所内

⑲ 発 明 者 江 川 全 神奈川県川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社  
玉川事業所内

⑳ 発 明 者 杉 山 稔 昭 神奈川県川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社  
玉川事業所内

㉑ 出 願 人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

㉒ 代 理 人 弁理士 丸 島 儀 一

明 細 書

1 発明の名称

プリントの縦横比自動変更可能な焼付装置

2 発明の概要

1) フィルム上に記録された所望のプリントの縦横比情報を読み取り、読み取り手段と、前記読み取り手段にて読み取った縦横比情報に基づき所望の縦横比に合致する倍率に焼付ヘッド部を自動設定する倍率設定手段とから構成される倍率制御とするプリントの縦横比自動変更可能な焼付装置。

2) 縦横比変更されたプリントの短辺の長さで変更前のプリントの一辺の長さとして等しくなる倍率に倍率設定を行う倍率制御とする倍率制御の範囲第1項記載のプリントの縦横比自動変更可能な焼付装置。

3 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明は、プリントの縦横比自動変更可能な焼付装置に関する。

〔従来の技術〕

近年、撮影済のフィルムを現像所へ出すと、同時プリントを依頼すれば約1年以内に一枚ずつプリントしてくれるいわゆる同時プリントシステムが広く普及している。ただし、そのプリントサイズ、プリントの縦横比等は一定で、いわゆるサバササイズと呼ばれるものである。例えば、風景写真(連山の写真、水平線の写真等)の場合には、横長のプリント(いわゆるシネマコープサイズ)にしたい場合があるが、この場合には同時プリントされた写真を見ても横長の横長プリントと現像所に依頼する手間を必要とする。

また、焼付け処理の面から見ると、同時プリントシステムは多数の本がフィルムと選択して自動的に、連続的にプリント作業が行われる。非常に安いコストでプリントすることになるが、焼付けプリントの場合には本がフィルムで普通の単位に近く切替されていること、プリントする本が印刷、プリントサイズの

どと処理装置に入力する必要がある、同時プリントに比べて著しく工数が増え、プリント枚数が増えるコストは高くなるという。特に、前述の如き横長プリントの場合には、映画紙サイズが特殊である為、通常の現像処理ではプリントできず、今般に「対応する」が現状であり、ますますコスト高のプリントとなり、という。

〔発明が解決しようとしている問題点〕

上述の如き問題点を解決する為には、撮影時に所望のプリントの縦横比を決める為、同時プリントの際に所望の縦横比で露光を行う様にすればよい。

しかしながら従来のカメラでは、撮影の時に横長プリントが文字と分かっていても、その縦横比情報をフィルム面に記録する手段が無く、したがって同時プリントの際に必要な横長のプリントと露光する事、入手する事ができなかつた。

〔問題を解決する為の手段〕

本発明は光軸方向のフィルムの位置と規制する内レール、外レール、上下方向のフィルムの位置を規制する外レールである。9はフィルムを巻き取るスプールであり、10はフィルムを巻き取り用スプールである。11はファインダー、12は図示されるような背蓋を嵌合する背蓋溝である。13はアパーチャである。14は発光ダイオード等の発光部材であり、横長プリント情報をフィルムに書き込む為のものである。第3図はカメラの内部構造を示す図であり、前述の横長プリント設定レバー4、キャンセルボタン5及びファインダー11の連動関係を示す。1は前記のカメラボディであり、ここでは部分断面で示される。4は前述の横長設定レバーであり、固定ピン15により、左右方向に揺動可能となっている。16はファインダー視野切替部材であり、通常プリント用ファインダー視野16aと横長プリント用ファインダー視野16bとを切換えられる。該ファインダー視野切替部材16は固定ピン17により左右方向に揺動

可能である。本発明は上記問題点を解決する事を目的とするもので、フィルム面に記録されたプリントの縦横比情報により、自動的に縦横比を調整してプリントを作成できる横長装置を提供するものである。

本発明の横長装置は、所望のプリントの縦横比情報を読み取る読み取り手段と、縦横比情報に基づき、露光の露光量を自動調整する露光調整手段とから構成されるものである。

〔実施例〕

次に、この発明の実施例について説明する。第1図は本発明の実施例1のカメラの外観図であり、主として部材を説明すると、1はカメラボディ、2は撮影レンズ、3はレリーズボタン、4は横長プリント設定レバーである。5は横長プリント設定のキャンセルボタンであり、誤って押す事を防止する為、爪で押す様に構成される。第2図は、カメラを裏面から見た正面図であり、裏蓋を取り脱した状態を示す。各部材の説明すると、6はパトローネを収納するパトロー

ネである。7は光軸方向のフィルムの位置と規制する内レール、8は上下方向のフィルムの位置を規制する外レールである。9はフィルムを巻き取るスプールであり、10はフィルムを巻き取り用スプールである。11はファインダー、12は図示されるような背蓋を嵌合する背蓋溝である。13はアパーチャである。14は発光ダイオード等の発光部材であり、横長プリント情報をフィルムに書き込む為のものである。第3図はカメラの内部構造を示す図であり、前述の横長プリント設定レバー4、キャンセルボタン5及びファインダー11の連動関係を示す。1は前記のカメラボディであり、ここでは部分断面で示される。4は前述の横長設定レバーであり、固定ピン15により、左右方向に揺動可能となっている。16はファインダー視野切替部材であり、通常プリント用ファインダー視野16aと横長プリント用ファインダー視野16bとを切換えられる。該ファインダー視野切替部材16は固定ピン17により左右方向に揺動

可能である。本発明は上記問題点を解決する事を目的とするもので、フィルム面に記録されたプリントの縦横比情報により、自動的に縦横比を調整してプリントを作成できる横長装置を提供するものである。

本発明の横長装置は、所望のプリントの縦横比情報を読み取る読み取り手段と、縦横比情報に基づき、露光の露光量を自動調整する露光調整手段とから構成されるものである。

〔実施例〕

次に、この発明の実施例について説明する。第1図は本発明の実施例1のカメラの外観図であり、主として部材を説明すると、1はカメラボディ、2は撮影レンズ、3はレリーズボタン、4は横長プリント設定レバーである。5は横長プリント設定のキャンセルボタンであり、誤って押す事を防止する為、爪で押す様に構成される。第2図は、カメラを裏面から見た正面図であり、裏蓋を取り脱した状態を示す。各部材の説明すると、6はパトローネを収納するパトロー

該切換部材16はバネ18に依り、右方向へ移動する。金ストローフ指針すると、緊急レバー19はバネ18により時計方向に回転し、緊急レバー19の一端19aと切換部材16の切欠部16cとが嵌合し、第4図に示す状態となる。この状態では、ファインダー11の位置に切換部材16の撮長プリント用視野枠16bが嵌合し、ファインダーと撮長プリント用になると共に検知スイッチ20がオンする。この状態でリリースボタン3を押すと図示しない公知の機構により、シャッターレリーズ機構が作動し、検知スイッチがオンしている状態でシャッターレリーズを行う。この場合は、図示しない回路により発光部材14が一瞬点灯する。すると第5図に示す如く、フィルム2の発光部材14に對向した部分に露光され、撮長プリント情報14aがフィルム上に記録される。シャッターレリーズ後のフィルム巻上げ動作でレバー20が図示しない機構により時計方向に回転し、緊急レバー19の一端19bを押す。すると緊急レバ

ー19はバネ18に依り反時計方向に回転し、切換部材16との嵌合が脱れる。すると、切換部材16はバネ18により、左方向に移動し第3図に示す状態、即ち、ファインダー11と通常プリント用ファインダー視野枠16aとと一致すると共に、検知スイッチ20がオフの状態になる。撮長プリント設定レバー4を誤って動かしてしまつた場合、もしくは撮長プリント設定レバー4を操作した後が代りてそれを解除した場合には、キョーセルボタン5を押せばよい。第4図の状態にキョーセルボタン5を押すと、その先端の緊急レバー19の一端19bを押すので、緊急レバー19は反時計方向に回転し、緊急レバー19の先端19aと切換部材16の切欠部16cとの嵌合が脱れ、第3図に示す状態になり、撮長プリント設定の解除が行われる。通常プリントサイズでの撮影を行うには、設定レバー4を操作せず第4図に示す状態のままシャッターレリーズを行えばよい。この場合には検知スイッチ20がオフなので、発

光部材14は点灯せず、従つてフィルム上には撮長プリント情報は記録されない。以上により、通常プリント撮影を行う。この場合、撮長プリントを設定して撮影を行う。この場合のフィルムは4枚あり、24a、24bとなる。第6図は、本発明を実施したカメラで撮影したフィルムに焼付け装置の機構を示す図である。31は本フィルムでフィルム送出部32から送り出され、フィルム巻取り部33に巻取られる。その中央部にラング、コンデンサレンズ、感光板、および感光部34からなる光検部34が設けられる。本フィルム31の下面には情報読み取り部35、焼付け用ズームレンズ36、ズームレンズ36の焦点合せを行うフォーカス用センサー37が配置されている。情報読み取り部35は前述の撮長プリント情報を読み取るためのセンサーを有する。本フィルム31、フィルム送出部32、巻取り部33、光検部34、情報読み取り部35、ズームレンズ36及びフォーカス用センサー37はハウジング38に収められ、焼付け

装置のヘッド部39を構成する。このヘッド部39は図示しない焼付け装置本体に對し上下方向に移動可能に取付けられる。39はヘッド部駆動モータであり、ヘッド部39を通常位置に對し上下方向に移動させることができる。ズームレンズ36の下方には、映画紙送出部40、映画紙巻取部41があり、映画紙リール送出部42より送り出され、巻取部41に巻取られる。また、焼付け用ズームレンズ36の前方には、映画紙面に連絡したシャッターストロボが設けられている。

次に、この様に構成された焼付け装置の動作を説明すると、焼付け位置に本フィルム31を巻くと図示しない公知のフレームエッジ検出器がエッジを検出し、本フィルム31を正確位置に停止させる。次に情報読み取り部35のセンサーで、フィルムに記録された前述のプリント情報14aの有無を検知する。情報は何れも通常プリントの撮影の場合(第5図の24a)に相当する。第6図の如く、通常のプリントサイズでの焼付けを行う。撮長プリント情報14aを

所被照写部の拡大倍率に於ては、図示の拡大装置の制御回路により、通常プリントに対し拡大された画面サイズに於ける倍率、ヘッド部移動モータ9によりヘッド部38を上方へ移動する。更にフォーカス用モータ7により被照写部11のピントを合わせる。又、シートの開口部形状を横長プリント用の開口形状に変更し、横長プリント用のトリミングを行う。トリミングの精度は第5図の2点線線の位置とする。この位置に横付りを行う。上述の如く横付りをを行うと、ロール状印刷紙上には第7図に示す如く横付りが行われる。即ち、印刷紙42上には通常プリント42aに対し、横長プリント設定を行うにプリント42bをバグプリントされる。走査処理終了後、カメラにて第7図の縦線部印刷紙42を切断すれば、設定通りのプリントを得ることが出来る。横長プリントの拡大サイズは横長プリントの短辺の長さで通常プリントの短辺の長さとは一致する長さとする。すると第7図の4分の

様に同一のロール状印刷紙上で、通常プリントと横長プリントを効率よくレイアウトすることが出来る。

前述の実施例に於ては、横長プリントの場合、ヘッド部を上方へ移動する等の手段に対しては、ヘッド部を上方へ移動すると共に、ヘッド部を90°回転させて横に付りをを行うと、第8図に示す如く、ロール状印刷紙42a上と通常プリント42aに於て横長プリント42bのバグ0°ずれの形で横付りをすることが出来る。この場合は、横長プリントの拡大サイズは横長プリントの短辺の長さで通常プリントの短辺の長さとは一致する長さとする。すると、第8図の4分の様に、同一ロール状印刷紙上で通常プリントと横長プリントを効率よくレイアウトすることが出来る。即ち、本発明による横長プリントの縦横比は例えは一義的に決まてゐる。又、2種類以上の縦横比を選択出来る様にすれば、検査スイッチの投入で感光部材の枚を増やし、それだけの情報に於て縦横比を決めて

ておきたい。前記実施例においては、ファインダー視野の切替は機械的構成にて行うように説明したが、液晶等の表示を用いて切替を行っても本発明を構成できる事は言うまでもない(発明の効果)

以上述べた如く、本発明によれば撮影時にカメラの横長プリント設定ボタンを押してから撮影を行えば、同時プリント時でもその撮影部は横長プリントを得る事が出来る。従って従来の如く、同時プリント後、横長増倍プリントにて横長プリントを得るのには、使用者がカメラ店へ足を運ぶ回数が増える事になるばかりでなく、同一時間で横長プリント(増倍プリント)と通常のプリント(同時プリント)の2枚が出来るというように、生産性が向上する事になる。

更に本発明によれば通常サイズのプリントと横長サイズのプリントは、同一のロール印刷紙を使用できるので、横長サイズを特殊サイズとして扱う必要がなく、非常にコストが横長プリントを得る事が出来る。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明を具したカメラの外観図、第2図はカメラの裏蓋側から見た正面図、第3図はカメラの内部構造を示す図、第4図は横長プリントを設定した場合の内部構造を示す図、第5図はフィルム情報記録状態を示す図、第6図は本発明を具した材料装置の概略図、第7図はプリントレイアウトの他の例を示す図である。

- 1・・・カメラボディ、
- 2・・・撮影レンズ
- 3・・・レリーズボタン
- 4・・・横長プリント設定レバー
- 5・・・キーンマルボタン
- 14・・・感光部材
- 16・・・ファインダー視野切替部材
- 23・・・横長プリント設定検査スイッチ
- 31・・・ネガフィルム、34・・・光源部
- 35・・・情報読み取り部
- 36・・・ズームレンズ

37...フォーカス用モータ

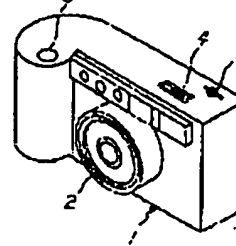
38...ヘッド部

39...ヘッド駆動モータ

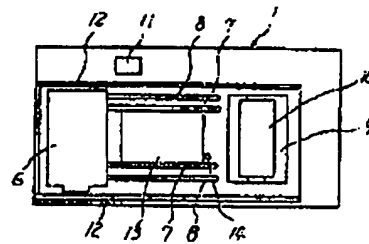
42...印刷紙、43...シャッタ

図面の符号(内括弧に表すもの)

第1図

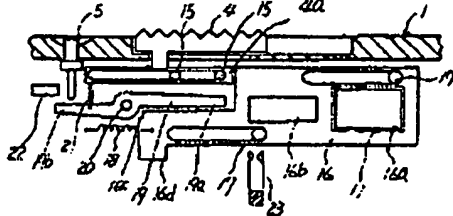


第2図

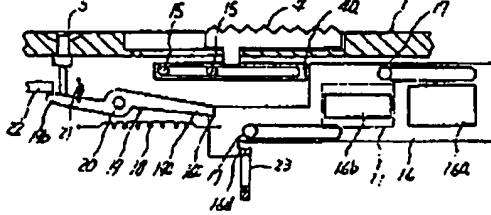


出願人 キヤノン株式会社  
代理人 丸山謙一

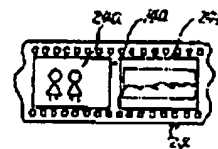
第3図



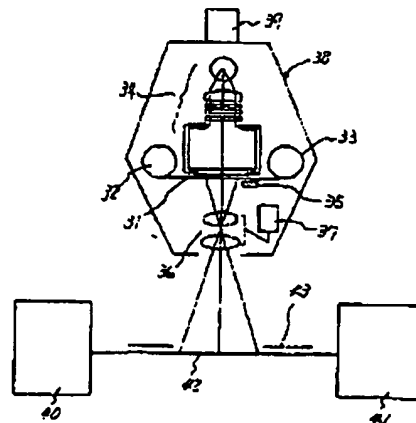
第4図



第5図



第6図



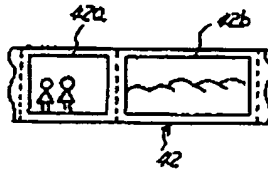
特開平1-282533(6)

特許庁長官 小川 邦 茂 殿

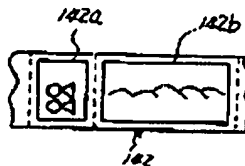
昭和63年 6月 20日

特許庁長官 小川 邦 茂 殿

第7図



第8図



1. 事件の表示

昭和63年 特 許 第 113273 号

2. 発明の名称

プリントの縦横比自動変更可能な焼付装置

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 東京都大田区下丸子3-30-2

名 称 (100) キヤノン株式会社

代表者 沢 栄 隆 三 郎

4. 代理人

住 所 〒146 東京都大田区下丸子3-30-2

キヤノン株式会社内(電話:56-1111)

氏 名 (5147) 丸 島 信 一

明 細 書

1. 発明の名称

プリントの縦横比自動変更可能な焼付装置

2. 特許請求の範囲

- (1) フィルム上に形成された所望のプリントの縦横比情報を読み取る読み取り手段と、前記読み取り手段にて読み取られた縦横比情報に基づき所望の縦横比に合致する倍率に焼付ヘッドを自動設定する倍率設定手段とから構成される事を特徴とするプリントの縦横比自動変更可能な焼付装置。
- (2) 縦横比変更されたプリントの短辺の長さが変更前のプリントの一边の長さと同等しなくなる倍率に倍率設定を行なう事を特徴とする特許請求の範囲第1項記載のプリントの縦横比自動変更可能な焼付装置。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は、プリントの縦横比自動変更可能な焼付装置に関する。

5. 補正の対象

明 細 書 及 び 図 面

6. 補正の内容

- (1) 明細書全文を別紙のとおり補正する。
- (2) 図面の序言(内容に変更なし)

## 【従来の技術】

近年、撮影済のフィルムを現像所へ出すと、同時プリントを依頼すれば自動的に1枚ずつプリントしてくれるいわゆる同時プリントシステムが広く普及している。ただし、そのプリントサイズ、プリントの縦横比は一定で、いわゆるサービスサイズと呼ばれているものである。例えば、風景写真（遊山の写真、水平線の写真等）の場合には、横長のプリント（いわゆるシネスコープサイズ）にしたい場合があるが、このためには同時プリントされた写真を見てから改めて横長プリントを現像所に依頼する手配を必要とする。

また、持ち付け現像の店から見ると、同時プリントシステムでは多数のネガフィルムを逐次して自動的に、連続的にプリント作業が行なわれる。非常に安いコストでプリントすることが出来るが、縦横レプリントの場合にはネガフィルムが普通3駒単位に短く切斷されていること、プリントすべきネガの選択、プリントサイズな

どを逐次装置に入力する必要がある、同時プリントに比べて著しく工費が増え、プリント1枚当りのコストは高いものとなっている。特に、前述の如き横長プリントの場合には、印刷紙サイズが特殊である為、通常の紙材の処理ではプリントできず、手納品で対応するのが現状であり、ますますコスト高のプリントとなってしまう。

## 【発明が解決しようとしている問題点】

上述の如き問題点を解決するためには、撮影時に所望のプリントの縦横比を決めておき、同時プリントの際に所望の縦横比で焼き付けたらよい。

しかしながら従来のカメラでは、撮影の時点で横長プリントが必要と分かっている、その縦横比情報をフィルム面に記録する手段がなく、したがって同時プリントの際に必要な横の横長プリントを焼出する事も、入手する事もできなかった。

## 【問題点を解決するための手段】

本発明は上記問題点を解決する事を目的とするもので、フィルム面上に記録されたプリントの縦横比情報により、自動的に縦横比を変更したプリントを作成できる焼付装置を提供するものである。

本発明の焼付装置は、所望のプリントの縦横比情報を読み取る読み取り手段と、縦横比情報に基づき、焼付け装置を自動設定する信事設定手段とから構成されるものである。

## 【実施例】

次に、この発明の実施例について説明する。第1図は本発明を実施したカメラの外観図であり、主々部材を説明すると、1はカメラボディ、2は撮影レンズ、3はリリースボタン、4は横長プリント設定レバーである。5は横長プリント設定のキャンセルボタンであり、誤って押す事を防止する為に、爪で押す様に構成される。第2図は、カメラを裏蓋側から見た正面図であり、裏蓋を取り出した状態を示す。各部材を説明すると、6はパイローネを収納するバ

イローネ室、7は先端方向のフィルムの位置を規制する内レール、8は上方向のフィルムの位置を規制する外レールである。9はフィルムを巻き取るスプール室であり、10はフィルム巻き取り用スプールである。11はファインダー、12は固定されない背景と染色する背景板である。又、13はアパーチャである。14は発光ダイオード等の発光部材であり、横長プリント情報をフィルムに写し込む為のものである。第3図はカメラの内装構造を示す図であり、前述の横長プリント設定レバー4、キャンセルボタン5及びファインダー11の動作関係を示す。1は調整カメラボディであり、ここでは部分図で示される。4は前述の横長設定レバーであり、固定ピン15により、左右方向に揺動可能となっている。16はファインダー視野切換部材であり、通常プリント用ファインダー視野16aと横長プリント用ファインダー視野16bとが存置されている。2はファインダー視野切換部材16は固定ピン17によ



り左右方向に回動可能であると共に、バネ18により常時左方向に所動される。19は固定レバーであり、固定部20により回動可能に軸支されると共に、一端19aは前記ファインダー視野切換部材16の切欠部16cと係合可能となると共に、バネ21により常時、時計方向に回動所動される。固定レバー19の他端19bは前述のキャンセルボタン5の先端と対向すると共に、図示しないフィルム巻上げ機構（又はリリース機構）に連動するレバー22とも対向する。23は横長プリント設定を検知する検知スイッチであり、前記切換部材16の突出部16dにより、通常プリント時はオフ、横長プリント時はオンとなる様に構成される。

上記の如き構成のカメラにおいて、横長プリントを指定して撮影する場合の動作を以下に説明する。横長プリントを指定する場合は、まず横長プリント設定レバー4を第3図において右へ操作する。すると該設定レバー4の先端部

より時計方向に回動し、固定レバー19の一端19bを押す。すると固定レバー19はバネ21に抗して反時計方向に回動し、切換部材16との係合が図れる。すると、切換部材16はバネ18により、左方向に回動し第8図に示す状態、即ち、ファインダー11と通常プリント用ファインダー視野16aとが一致すると共に、検知スイッチ23がオフした状態に戻る。横長プリント設定レバー4を誤って動かしてしまった場合、もしくは横長プリント設定レバー4を操作した後気が代ってそれを解除したい場合には、キャンセルボタン5を押せばよい。第4図の状態でキャンセルボタン5を押すと、その先端が固定レバー19の一端19bを押すので、固定レバー19が反時計方向に回動し、固定レバー19の先端19aと切換部材16の切欠部16cとの係合が図れ、第3図に示す状態に戻り、横長プリント設定の解除が行なわれる。通常プリントサイズでの撮影を行なうには、設定レバー4を操作せず第3図に示す

4aが、ファインダー視野切換部材16を押す。該切換部材16はバネ18に抗して、右方向へ回動する。全ストローク回動すると、固定レバー19がバネ21により時計方向に回動し、固定レバー19の一端19aと切換部材16の切欠部16cとが係合し、第4図に示す状態となる。この状態では、ファインダー11の位置に切換部材16の横長プリント用視野16bが合致し、ファインダーを横長プリント用にすると共に検知スイッチ23がオンする。この状態でリリースボタン8を押すと図示しない公知の手段により、シャッターリリースが行なわれる。検知スイッチ23がオンしている状態でシャッターリリースを行なった場合は、図示しない回路により発光部材14が一瞬点灯する。すると第5図に示す如く、フィルム24の発光部材14に對向した部分が露光され、横長プリント情報14aがフィルム上に記録される。シャッターリリース後のフィルム巻上げ動作でレバー22が図示されない機構に

状態のままシャッターリリースを行なえばよい。この場合は検知スイッチ23がオフなので、発光部材14は点灯せず、従ってフィルム上には横長プリント情報は記録されない。以上により、通常プリントで撮影を行なった場合、横長プリントを設定して撮影を行なった場合のフィルム巻はそれぞれ、24a、24bとなる。第6図は、本発明を実施したカメラで撮影したフィルムの横長露光の態様を示す図である。31はネガフィルムでフィルム巻出部32から送り出され、フィルム巻取り部33に巻き取られる。その中央部にラング、コンデンタレンズ、被撮像、ミキシングボックスからなる光源部34が設けられる。ネガフィルム31の下側には情報読み取り部35、鏡付用ズームレンズ36、ズームレンズ38の焦点合わせを行なうフォーカス用モータ37が配置されている。情報読み取り部35は前述の横長プリント情報を読み取る為のセンサーを有する。ネガフィルム31、フィルム巻出及び巻き取り部

32、33、光軸部34、情報読み取り部35、ズームレンズ36及びフォーカス用モータ37はハフジに収められ、焼付装置のヘッド部38を構成する。このヘッド部38は図示しない焼付装置本体に対し上下方向に移動可能に支持される。39はヘッド部駆動モータであり、ヘッド部38を通常位置に対し上下方向に移動させる事が出来る。ズームレンズ38の下方には、印刷紙送出部40、印刷紙巻取部41があり、印刷紙42が送出部40より送り出され、巻取部41に巻取られる。また、焼付用ズームレンズ36の前方には、印刷紙面に近接してシヤツク43が設けられている。

次に、この様に構成された焼付装置の動作を説明すると、焼付位置にネガフィルム31が来ると図示しない公知のフレームエッジ検出器がエッジを検出し、ネガフィルム31を正解位置に停止させる。次に情報読み取り部35のセンサーが、フィルムに記録された前述の横長プリント情報14aの有無を検知する。情報が何にも

ない通常プリントの情報の場合（第6図の24aに相当）は、第6図の如く、通常のプリントサイズでの焼付をおこなう。横長プリント情報14aを情報読み取り部35が検出した場合は、図示しない焼付装置の制御回路により、通常プリントに対し拡大された横画サイズになる様に、ヘッド部駆動モータ39によりヘッド部38を上方向へ移動する。更にフォーカス用モータ37により移動した位置でのピント合わせを行なう。又、シヤツク43の開閉形状を横長プリント用の開閉形状に変更し、横長プリント用のトリミングを行なう。トリミングの大きさは第8図の2点鎖線の大きさにする。しかる後に焼付けを行なう。上述の如く焼付けを行なうと、ロール状の印刷紙上には第7図に示す如く焼付けが行なわれる。即ち、印刷紙42上には通常プリント42aに対し、横長プリント設定を行なったプリント42bがプリントされる。定着処理終了後、カッターにて第7図の破線部で印刷紙42を切断すれば、設定通りのプ

リントを得ることが出来る。横長プリントの拡大サイズは横長プリントの短辺の長さが通常プリントの短辺の長さとはほぼ一致する大きさとする。すると第7図から分かる様に同一のロール状印刷紙上で、通常プリントと横長プリントを殆どよくレイアウトする事が出来る。

前述の図例においては、横長プリントの場合、ヘッド部を上方向へ移動する事のみで対応したが、ヘッド部を上方向へ移動すると共に、ヘッド部を90°回転させて向き付けを行なうと、第8図に示す如く、ロール状印刷紙142上で通常プリント142aに対し横長プリント142bが90°ずれた形で焼付ける事が出来る。この場合は、横長プリントの拡大サイズは横長プリントの短辺の長さが通常プリントの短辺の長さとはほぼ一致する大きさとする。すると、第8図から分かる様に、同一ロール状印刷紙上で通常プリントと横長プリントを殆どよくレイアウトする事が出来る。なお、本発明による横長プリントの縦横比は例えば一意的に決めてしまえば良

い。又、2種類以上の縦横比が選択出来る様にするには、検知スイッチの数及び発光部材の数を増やし、それぞれの情報に対し縦横比を決めてしまえばよい。前記実施例においては、フアインダー視野中の切替は機械的構成にて行なうように説明したが、液晶等の素子を用いて切替を行なっても本発明を構成できる事はいうまでもない。

#### 〔発明の効果〕

以上述べた如く、本発明によれば撮影時にカメラの横長プリント設定ボタンを押してから撮影を行えば、同時プリント時でもその撮影物は横長プリントを得る事が出来る。従って従来の如く、同時プリント後、焼き増しプリントにて横長プリントを得るのに比べ、使用者がカメラ区へ足を運ぶ回数を減らす事が出来るばかりでなく、同一場で横長プリント（焼増プリント）と通常のプリント（同時プリント）の2枚が出来てしまうといったムダもなくす事が出来る。

更に本発明によれば通常サイズのプリントと  
横長サイズのプリントは、同一のロール印刷紙  
を使用できるので、横長サイズを特殊サイズと  
して扱う必要がなくなり、非常にコスト便な横  
長プリントを得る事が出来る。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明を実施したカメラの外観図、  
第2図はカメラを正面側から見た正面図、第  
3図はカメラの内部構造を示す図、第4図は横  
長プリントを設定した場合の内部構造を示す  
図、第5図はフィルム情報記録状態を示す図、  
第6図は本発明を実施した焼付装置の概略図、  
第7図はロール状印刷紙のプリントレイアウト  
を示す図、第8図はプリントレイアウトの他の  
例を示す図である。

- 1…カメラボディ
- 2…撮影レンズ
- 3…リリースボタン
- 4…横長プリント設定レバー
- 5…キャンセルボタン

- 14…発光部材
- 16…ファインダー視野切換部材
- 23…横長プリント設定検知スイッチ
- 21…ネガフィルム
- 34…光照射部
- 35…情報読み取り部
- 36…ズームレンズ
- 37…フォーカス用モータ
- 38…ヘッド部
- 39…ヘッド駆動モータ
- 42…印刷紙
- 43…シヤツタ

出願人 キヤノン株式会社

代理人 丸 島 徹 一

